

理学部は今

No.25 June 2010

理学部のホームページ <http://www.sc.niigata-u.ac.jp>



4月5日 入学式での入場風景



入学式での歓迎式典



4月17、18日 数学科新入生研修
(県青少年研修センターにて)



5月11日 学業等成績優秀者奨学金授与式
(関連記事P.8)

CONTENTS

■研究紹介

地質科学科 教授 豊島 剛志 2

■後援会H21年度事業報告

H22年度事業計画 3

■入学者数・進路状況 3

■職員異動 3

■在学生の声 4・5

■学科ニュース 6・7

■臨海実験所ニュース 8

■新潟大学学業等成績優秀者

奨学金制度について 8

■転出教員の挨拶

・山平 寿智 准教授(自然環境科学科) ... 8

■これからの行事予定 8

大陸の運動・変動を知りたい

地質科学科 教授 豊島 剛志

私は地質調査のためによく山脈や山地、丘陵地などの野外に出かけます。国内では新潟県だけでなく北海道から九州まで、国外では南極にまで出かけます。地形的にあるいは気候的に大変厳しい場所もあります。なぜ、こんなに遠くまで出かけるのか、健康のため？ ではありません。その理由は、かつての陸地の地下深部（数km～数10kmの深さ）を構成していた岩石や地層が、現在地表に顔を出している場所だからです。特に、これらの岩石や地層に現れている形や模様を調べます。「構造地質学」という分野の研究です。岩石や地層にはかつての数々の地学現象の様子が記録されています。それらの中で、岩石や地層がかつてどのように動いたか、どのような地殻変動が起こったか、その運動が起こった理由・過程などを調べます。かつての地震もその一つです。地球表層部を構成している厚さ100kmほどのプレート（特に陸を作っている大陸プレート）の運動を考えたりもします。プレートは今も昔も、ぶつかったり、分裂したり、すれ違ったりします（何か人間関係のようですが）。ぶつかる所では、大きな地震が起こったり、火山が噴火したり、地表の物質が地下100kmの場所まで引きずり込まれたりします。ヒマラヤ山脈や北海道の日高山脈、南極のセールロンダーネ山地など、大きな山脈もできます。かつて起こった、これらの地学現象を山脈や山地、丘陵地の研究から解読するのです。たくさんの場所で研究するのは、それらから地学現象・地殻変動の法則性をつかむためです。これまで、国内では日高山脈の研究に力を注いできました。

その一環として、日本南極地域観測隊夏隊として3回、南極に出かけました。そして、今、東南極のセールロンダーネ山地の研究を進めています。そこは、かつての大陸（プレート）の衝突・合体・成長による、非常に大きな「 Gondwana 超大陸」の形成とその後の分裂の過程が調べられる場所です。超大陸は4～5億年毎に衝突によって形成されますが、セールロンダーネ山地における衝突過程の復元が国際的にも期待されています。

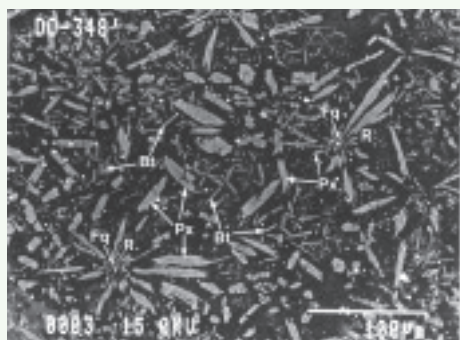
また、かつての大陸地殻の中に記録された様々な深度の断層活動（深部の塑性変形から浅部の地震性高速すべり過程まで）の研究を行い、断層の総合的理解を目指しています。特に、「マイロナイト」と呼ばれる岩石を用いて、地下深部の高温条件でのゆっくりした断層の挙動を調べています。さらに、「シュードタキライト」という名前の岩石についても研究しています。これは、地震の時に断層が高速ですれ動き、摩擦熱を発生させるためにできる岩石で、「地震の化石」とも言われています。地震時の断層沿

いの摩擦熱は、まわりの岩石を1000℃以上の高温にしてしまいます。その熱によって断層沿いの岩石が局部的に融けますが、地震後に急速に冷却されて黒っぽい脈状の岩石になります。これがシュードタキライトです。この岩石に最初に遭遇した場所は北海道の日高山脈で、大学院博士課程の時でした。それまで文献でしか見たことがありませんでしたが、大雨のために大きくえぐられた河原の下から顔を出した岩盤の中の黒い脈を見た時、「これだっ！」と体全体で感動したことを今でも覚えています。当時、国内での報告例はなく、佐渡で行われた研究会で発表しましたが、案の定？ こてんぱんにやられました。その後も、シュードタキライトの成因について摩擦溶融説をとるか粉碎説をとるかで、粉碎説の研究者から議論で突っ込まれました。それらをバネにして国際誌に投稿・掲載となりました。その後、シュードタキライトは国内のたくさんの場所で見つかっています。新潟県内では笹川流れなどで見つかっています。南極では地下20kmで形成されたシュードタキライトや、 Gondwana 大陸の形成に関わったシュードタキライトを見出しました。これらシュードタキライトの形成過程・メカニズムの研究を進めています。そして、地震を起こす断層の特徴は何か、くり返す地震と地震の間の時間に断層周辺では何が起きているかなどを明らかにしようとしています。

また、最近では、共同研究者とともに、越後平野とその周辺地域に発達する褶曲や断層といった地質構造を調べています。これらは「新潟－神戸ひずみ集中帯」を構成する地質構造です。新潟－神戸ひずみ集中帯は日本でも有数の変動帯で、その変動の結果、新潟地震、兵庫県南部地震、2004年新潟県中越地震、2007年新潟県中越沖地震などが起こっています。新潟県下の褶曲や断層の形成過程を知ることで、新潟－神戸ひずみ集中帯において起こる地震についての地質学的制約条件を知ることができると期待されます。

さらに、2004年新潟県中越地震・2007年新潟県中越沖地震に伴う雪井戸地下水の水温・水質の異常を見出して、それらの変化を追跡調査し、異常が現れた原因、活断層との関係を共同で研究しています。越後平野地下の地下水流動システムを理解したいと考えています。

たくさんのテーマで研究を行っていますが、これらテーマを通して、学生・大学院生・新潟大学内外の研究者の方々と一緒に、かつての大陸（プレート）の動き、地震などの地殻変動、断層の総合的理解を目指しています。



北海道浦河町産のシュードタキライトに見られる微小結晶（電子プローブマイクロアナライザによるBSE像）。地震時の断層沿いでは、花のような放射状の結晶（R）や樹枝状・針状・燕尾状の結晶（Bt：黒雲母、Px：輝石）ができることがあり、「花びら」の中心には石英（Fq）があります。千島弧と北海道の衝突時の地震によって、地下4kmで形成されました。



東南極アムンゼン湾トナー島産のシュードタキライト（黒色部）。地下深部で形成されました。岩石標本の長辺は約15cmで、第39次日本南極地域観測隊夏隊の調査にて採取。新潟大学旭町学術資料展示館にて展示中。理学部サイエンスミュージアムにも同様の展示物あり。



理学部後援会の事業報告と事業計画

理学部後援会理事会が3月29日（月）に開催され、平成21年度の各種事業の報告と平成22年度の事業計画が説明され、いずれも承認されました。続いて、平成22年度の定期総会が4月5日（月）に開催され、今年度の各種事業計画が説明され、承認されました。

平成21年度 理学部後援会事業報告

1 定期総会の開催

平成21年4月6日（月）11時から
新潟大学理学部B303講義室

2 各種事業

- (1) 学生の課外活動及び福利厚生関係
 - ① 新聞の購読（新潟日報、朝日新聞、日本経済新聞、日刊スポーツ）
 - ② 大学祭援助
 - ③ 学生用設備充実の援助（プロジェクター、電動スクリーン）
- (2) 学部教育事業関係
 - ① 特別講演会の開催、学生用図書購入、新入生合宿研修、野外実習及び臨海実習等の援助
 - ② 学生インターンシップ協力事業所との懇談会への援助
 - ③ 国際交流事業関係等への援助
- (3) 卒業祝賀会関係
平成22年3月23日（火）15時30分から（卒業式終了後）新潟東映ホテルで卒業祝賀会を開催し卒業生、保護者、同窓会後援会役員、教職員の方々から多数参加いただき盛大に行われました。
- (4) その他
広報活動として「理学部は今」を年3回発行

3 理事会の開催

平成22年3月29日（月）17時30分から理学部小会議室

平成22年度 理学部後援会事業計画

1 定期総会の開催

平成22年4月5日（月）11時から
新潟大学理学部B303講義室

2 各種事業

- (1) 学生の課外活動及び福利厚生関係
 - ① 新聞の購読（新潟日報、朝日新聞、日本経済新聞、日刊スポーツ）
 - ② 大学祭援助
 - ③ 学生用設備充実の援助
- (2) 学部教育事業関係
 - ① 特別講演会開催への援助
 - ② 学生研修、実験・実習への援助
 - ③ 国際交流事業関係等への援助
 - ④ インターンシップ関係等への援助
- (3) 卒業祝賀会関係
卒業式当日に卒業祝賀会を開催 平成23年3月23日（水）（参加者：卒業生、保護者、同窓会役員、後援会役員、教職員）
- (4) その他
広報活動として「理学部は今」を年3回発行

3 理事会の開催

平成23年3月28日（月）17時30分から理学部小会議室
（予定）

平成21年度卒業生進路状況および平成22年度入学者数

		数学科	物理学科	化学科	生物学科	地質科学科	自然環境科学科	計
平成22年度入学者数	新入学	37	48*	35	22	27	30	199
	3年次編入学	4	2	1	4	1	0	12
平成21年度卒業生進路状況	進学	14	41	25	14	10	23	127
	教員（含む非常勤）	2	2	1		1	1	7
	公務員	1	1				1	3
	食品・飼料				1		1	2
	繊維・化学・石油					1		1
	電力・ガス			2				2
	製薬						1	1
	建設・建設材料					1	1	2
	金属・機械	1					2	3
	電気・精密機械							0
	情報・通信	8	2	2		3	2	17
	印刷・出版		1					1
	商業・サービス	4		2		3	2	11
	金融・保険	2	1	1	2			6
	教育学習支援		1					1
	運輸・その他	3				1	2	6
	その他	1		4	2	5	3	15
合 計		36	49	37	19	25	39	205

*留学生を含む



職員異動

4月に事務職員の人事異動がありました。

太田耕治総務係長が医歯学総合病院管理運営課医療材料係長へ配置換となり、後任には自然科学系総務課から渡邊直秀主任が昇任されました。主に学部内の各種委員会のとりまとめや施設保全業務を担当します。また、学務係の西澤順子さんが退職され、後

任にパート職員として山岸ちづるさんが採用されました。主に各種証明書の発行や講義室の管理を担当します。

引き続き、学生の皆様及び教職員が充実したキャンパスライフを送れるよう力を注いで参りたいと考えておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



在学生の声

大学とは 数学科 2年 村岡 史隆

初めに、大学進学を考えている人に言います。大学生生活はとても楽しいものです。僕はそう思います。大学に入る一番の目的として、したい勉強をするため！というのが挙げられますが、大学ではそれ以上のものを得ることが出来ると思います。

まず、大学入って決定的に違うのは一人暮らしが始まるということです。親の監視があり、なんでもかんでも親に頼っていた頃とは違い、全て自分でやらなくてはなりません。言わば完全に自立した状態ですね。これは大変ですが、自由でとても楽しいものでもあります。僕が一番苦労しているのは1限に間に合うように起きることですね。僕は朝起きるのがとても苦手で、なのに毎日1限が入っているという危機的状況なのです。案の定、1限の授業にはあまり出ていません。みなさんには自分の生活スタイルに合わせて講義をとることをオススメします。

あと、新潟大学は部活動やサークル活動が盛んです。サークルについて説明すると、誰でも立ち上げることが

出来る団体のことを指していて、現にいろいろな種類のサークルがあります。どこのサークルもイベントを大事にしています。ざっと一例ですが、旅行や浜コン、スノーボード合宿などなど、まあ、とても楽しいものばかりです。実際に自分もサークルには3つ入っていて、とても充実した生活を送らせてもらっています。その分生活は多忙になってしましますが。

大学生活では学ぶことが沢山あります。その中で一番大きいのは人間関係だと思います。高いお金を払うだけの価値があるのだろうかとか思っていたこともありましたが、最近そうでもないことに気付きました。新潟大学に来て損はありません!! 新大進学を考えている人、そうでもない人もみんなお待ちしております。



一年間をふりかえって 物理学科 2年 山田 蒼介

私が大学生になってから一年が過ぎました。好きな物理学を勉強できることに幸せを感じています。物理学科の友人たちに、私は一年前に初めて会いました。入学した時、私には気楽に話せる人が誰もいない状況でしたから、とても不安でした。しかし、物理学に興味があるということでは一致していたため、すぐに気が合う仲間を作れてよかったです。新しくできた友達と学生生活のいろいろな情報を共有して、充実した一年を過ごせたと思います。

私は物理学科の学生なので、物理学や数学を勉強することは当然ですが、しかし、そのような専門的な科目に

加え、教養的な科目(いわゆるGコード科目)をたくさん学べたことも、この一年間を充実させた大きな要因だったと思います。私は教養科目について、特に前から興味があった分野の授業に対して、物理学の場合と同様に、真剣に取り組めてとてもよかったと思います。

今年度もいろいろなことに積極的に取り組み、着実に進歩したいと思います。



大学生活について 化学科 2年 藤原 咲季

「大学は人生の夏休みだ!!」と言い放った高校の先生がいました。大学生になって1年、夏休みのようにあっという間でした。勉強にサークル、バイトに恋!! 楽しい事だらけです。勉強しに大学に来たと言っても、実際はいろんな誘惑のせいで面倒くさく思うことがあります。でも、自分の好きな専門なら結構楽しいもんです。まあ化学なのに物理系多くね? とショック受けましたけどね。

サークルは高校の時やっていたことを続けるもよし、新しいことにチャレンジするもよし。とにかく自分が楽しめて頑張れることならなんでもいいと思います。サークルなら違う学科の友達や先輩もできるので、新しい出会いが増えますよ。ついでにバンドサークル楽しいですよ! (笑)

バイトは社会勉強の一貫...いやいや小遣い稼ぎで

しょ!! でも一生懸命バイトして貯めたお金を使うとき、なんだかぐっとくるものです。そういう気持ちを覚えるのは大切なことだと思います。それに、学校では教えてくれない大人の事情、社会の事情を学べます。

あと恋とかいいですね。高校までと違って3つ以上年上の人と付き合えるんですよ!! 年上好きの人っ今がチャンスです!!! (笑)

とまあこんな感じ大学生ってのはいかに楽しむかですよ。この4年間で自分にとって最高の人生の一部になるよう頑張らしましょう(^^) /



新潟大学1年目 生物学科 2年 山田 真理

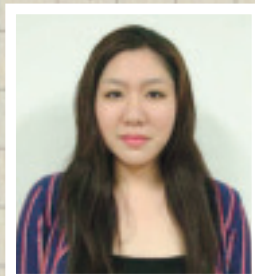
新潟大学に入り、早一年が立ちました。勉強に、部活に、バイトに、と忙しい日々を送り、そしてそれらの中で出会えた最高の仲間たちのおかげで、私の新潟大学1年目の生活はとても充実したものとなりました。

大学生活においていつも実感することは、自分次第で可能性を無限にもゼロにも出来るということです。様々な学部が入り混ざる新潟大学では、様々な情報や未知の世界が溢れています。それら絶好の機会を、敏感に受容して、広げていく…。もちろん失敗することもあります。そのような姿勢は自身を強くしていくと思いますし、社会人としての基本的な姿勢の形成に、重要な役割を果たしてくれるでしょう。

また、私は現在、生物学科に所属し、日々、ミクロからマクロまでの生命現象を学んでいます。2年生になって専門科目が増え、益々、生命の不思議に触れることが出来るようになりました。自身が抱いた興味や疑問は、濃いキャラクターを持つ先生方が熱く教えてくださいま

すし、先輩や同輩と話し合うことも出来ます。もちろん自主的な探求にも万全な環境です。そして何よりも、先生方が学生を育てることにいかに熱心であるか、ひしひしと感じることが出来ます。大学において、信頼できる師を持つことは、信頼できる友を持つことと同じくらい大切なことです。生物学科の先生は、学生に熱き情熱を傾けて下さっている方ばかりなので、私たちは本当に素晴らしい環境にいると言えるでしょう。

このような素敵な環境に安住せず、自身のやりたいことにメリハリをつけながら2年生も充実した年にしていきたいと思います。1年生のみなさんも、充実した大学生活が送れますように。雪と強風にはくれぐれもお気を付け下さいね。



私の一年間 地質科学科 2年 品田 航也

私にとってこの一年間は、とても密度の濃い一年間となりました。私は高校時代に地学を履修していなかったため、大学から地質学に触れることとなりました。最初は不安な面もありましたが、学んでいくうちにもっと勉強してみたいと思うようになり、自分から積極的に学ぶようになりました。また、勉強だけでなく地質科学科では、先輩方や教授の方々と接する機会が多いため、人間関係も多く学びました。

地質科学科では、年に数回、地域の人に地学を学んでいただく行事を行っています。私はこの行事を通して人との接し方や、思いやり、勉強の大切さ、そして充実感など、貴重な経験をすることができました。

最後になりましたが、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。大学では、茫漠とした自由が与えられ

ます。この自由をどう生かすかは自分次第です。大学4年間悔いのないように、楽しいキャンパスライフを送っていきましょう。



私の学生生活 自然環境科学科 2年 岡村 法子

私が大学生活を過ごしてきて思ったのは、大学は自由だなあ、ということです。大学では、自分で自由に興味のある授業を選択して学ぶことができます。一人暮らしで好きな時間に起きたり、自由にバイトをしたり友達と遊んだり、いろいろやりたいことはたくさんあります。私は自然環境科学科で物理学・化学・生物学・地学の基礎を中心に勉強していますが、大学の授業は高校で勉強しなかった分野も多いです。知らなかった分野を勉強するということは、「あれはこういうことだったのか」「こんなこともあるのか」というふうに、今まで気づかなかった新しいことに興味を持つきっかけとなります。しかし私は最初、自分が知らない科目については、難しいからよくわからないと言ってきちんと考えようとしていませんでした。でも友達と一緒に考えたり、教えてもらったりして理解することができたとき、今までは自分で面倒

くさがって知ろうとしていなかっただけだったのだと思いました。まず「知りたい」と思って興味をもつことが大切なのだと思います。

また私は授業のほかに時々、学科の同じようなことに興味を持った人と一緒に勉強会をして、調べたり発表し合ったりしています。みんなで勉強すると、一人ではよくわからないことも理解しやすいし、他の人の話を聞いて新しく興味を広げることもできます。自由にいろいろなことができる大学生活だからこそ、この「知りたい」という気持ちを大切に、いろいろなことに自分から興味を持っていきたいと思っています。





各学科ニュース

数学科

数学科では、平成22年3月31日付けで高田敏恵准教授が九州大学に異動しました。学科においてトポロジーの分野の教員が不在になりましたので、現在その後任人事を行っています。

平成22年4月16日（土）と17日（日）の2日間、今年も、新入生を対象に大学での勉学や生活についてのガイダンスや親睦を兼ねて合宿研修を行いました。場所は県立青少年研修センター（新潟市越前浜）で実施しました。新入生38名、教員4名が参加しました。教員による講義、懇親会、レクリエーションなどを通して、交流や親睦を深めたようで、良き学友を得たように思います。

また、数学科では、年に2回（前期と後期）、理学部後援会の援助のもとで、数学科講演会を行っています。前期は、数学科の卒業生を迎えて、教職希望の学生や公務員希望の学生に対して、貴重なアドバイスをいただいています。今年は、5月12日に数学科卒業生の鈴木修子さん（新潟東高等学校教諭）

と沢口美幸さん（新潟大学財務部職員）に講演していただきました。鈴木さんには教員になるための勉強法について、沢口さんには公務員試験や大学法人職員の試験について、講演をしていただきました。教職や公務員を目指す学生にとって、非常に参考になったと思います。

理学部では、教員の研究交流を目的の一つとして、学科持ち回りで「理学部コロキウム」が開催されています。6月23日（水）の担当は数学科で、羽鳥 理教授が講演の予定です。羽鳥先生の研究の紹介、最近の研究結果などについて講演して頂けると幸いです。

更に、数学科の今後の予定では、8月上旬にオープンキャンパス、11月に高校生を対象に数学トップセミナーを新潟県教育委員会との共催で計画しています。これにより、数学に更に興味を持つ高校生が増加することを期待しています。

物理学科

はじめに物理学科ゆかりの事務員の方々の異動について。3月末日をもって中山さん（学科事務・図書）と西沢さん（学科事務・理学部学務係）が退職されました。長い間、私たち学科教員を暖かく見守ってくださり、ありがとうございました。なお、4月から中山さんのあとを継いで、小林隆子さんが学科事務のお仕事をしてくださることになりました。着任早々、年度始めの学科ガイダンスの準備に追われ、ご苦労さまでした。これにめげず、これからも学科教員のサポートをどうかよろしくお願いします。

教員の方々では、鈴木先生が定年でご退官されました。今後は研究を継続されると共に、自然科学系フェローとして大局的な立場から、自然系の幅広い分野にわたってご指導して下さることと思います。また、物理学科から自然環境科学科へ移られた榎田先生も、定年でご退官されました。なお、私ごとで恐縮ですが、榎田先生が郷里の奈良県のほうへ戻られる少し前に、私（渡辺）は個人的に、お食事をご馳走になりました。この場をかりて御礼を申しあげます。ありがとうございました。

年が明けてから物理学科では別記のように、学生の研究と就職活動の支援を目的に立ち上げた「物理学科サイエンスキャリアコンパス準備室」のFD講演会を3回、開催しました。特に、

登谷氏の講演会には学科の内外から多くの方々に参加してくださいました。学科としてこの場をかりて、あらためて御礼を申し上げます。

年度も改まったこの4月には、留学生1名を含む48名の新入生が物理学科1年生として入学しました。新入生歓迎も兼ねた学科恒例のケルビン祭が、今年は5月28日に開催される予定です。次回の学科ニュースでは、このお祭りの模様についてご報告します。

◎平成21年度物理学科FD講演会

<平成22年2月19日（金）>

登谷美穂子氏 京都大学女性研究者支援センター特任教授
理系女子学生・女性研究者支援のありかた：京都大学の例から

<平成22年3月15日（月）>

久保衆伍氏 島根大学総合理工学部教授 産学連携センター長
島根大学産学連携センターでのキャリアパスについての取り組み

<平成22年3月29日（月）>

松下明行氏 物質・材料研究機構 光触媒材料センター
研究評価とキャリアパス ―研究者の競争社会―

化学科

本年度化学科へは、35名の新入生と1名の3年時編入生が入学しました。4月6・7日と二日間にわたって行われた新入生ガイダンスでは、高校とは異なるカリキュラムに対応しようと、皆必死に説明を聞いていました。講義が開始されちょうど1週間が経った15日には、新入生と教員との歓迎懇談会が第一食堂で開催されました。新しい生活に多少の戸惑いはあるものの、少しずつ大学内での自分の居場所を見つけつつあるので、今後の大学生活への熱い思いを語ってくれました。また17日には在校生主催の学生・教員懇親会（タテコン）が開催され、化学科伝統の縦の繋がりを深め合いました。詳細およ

びその他の新着情報は、化学科ホームページ（<http://chem.sc.niigata-u.ac.jp>）をご覧ください。



化学科新入生懇談会（4月15日、第一食堂にて）

生物学科

今年も恒例の新入生との懇談会が4月16日の夕方に行われました。新1年生全員と3年次編入生4名および在校生、教官が理学部大会議室に集まり、新潟の特産品を集めたお弁当を堪能しながら、新入生の自己紹介や教官の「わたしが学生だった頃」の昔話に大いに盛り上がりました。今年の新入生は音楽を趣味とする学生が多いみたいです。2、3、4年生も新学期がスタートしました。特に新2年生は今年から「生物学基礎演習」



が新たに始まります。この演習科目は学生が主体となって大学構内・周辺の動植物に触れながら生命現象への関心や理解を深めることを目的とす

るものです。その成果は順次HPに公開していく予定ですのでご期待ください。3年生もより専門性の深い講義・実習が始まります。4年生はそれ



ぞれの研究室に所属し、課題研究に取り組み始めました。スタッフ一同は学生が充実した1年を送れるよう、精一杯努力していきます。なお、生命環境棟の7Fには、自動細胞解析捕集装置(FACS)、X線結晶構造解析装置、蛍光顕微鏡などの高度な機器を備えた共通機器室が設置されました。学部学生・大学院学生などの研究に役立って行くと思います。

地質科学科

今年度最初の地質科学科ニュースです。今年度からは新川が担当します。なるべく地質科学科の今をお伝えできるように努力いたしますのでよろしくお願いいたします。

さて、昨年度末には、誠に残念ながらお二人の先生、周藤・田澤先生が退職されました。長い間教育・研究にあたってくださり、有難うございました。また、昨年度は25人の卒業生を送り出すことができました。ご活躍を期待しています。

今年度は、日本全国から27人の新1年生を迎えることになりました。全員がそろって卒業できるように教職員一同微力ながらも努力していきますので、保護者の皆さまにもご協力のほどお願い申し上げます。

今年度の学科としての行事は、JABEE(日本技術者教育認定機構)の審査があります。これは5年おきに機構の審査を受けなければJABEEコースが継続できないことになっているためです。もっか、申請書作りを鋭意行っているところです。

また、本学科では今年度も社会に向けてたくさんのイベントをおこなって、連携を深めて行きたいと考えています。5月には地質の日にちなみ、5月16日(日)にサイエンスフェスティバルを開催しました。催し物はウェブサイトに載りますので、ご覧いただき、是非ご来学ください。サイエンスミュージアムも充実しましたので、あわせてご覧いただけると幸いです。

自然環境科学科

自然環境科学科では、平成22年3月末に樫田昭次先生が定年退職されました。樫田先生は、16年前の学科創設時からのメンバーであり、当学科の発展に大きく貢献されてこられました。



た。また、平成22年4月末には、山平寿智先生が琉球大学にご栄転されました。転任先の沖縄で、魚類の生態学についての研究をより一層アクティブに展開されるものと思います。

本学科では、本年度は31名の新一年生を迎えました。4月から5月にかけては、アットホームな本学科の新年度の恒例行事が目白押しでした。まずは4月9日に2年生の企画による新歓コンパが生協食堂で盛大に行われました(写真はその様子)。5月15日には、新入生オリエンテーションとして、新一年生と教員で海辺の森キャンプ場で飯ごう炊飯を行いました。5月22日には、学生主催の遠足(上堰堀→角田山登山→角田浜)が予定されています。これらの行事を通して、新一年生もスムーズに大学生活をスタートさせることができたのではないのでしょうか。

臨海実験所ニュース

臨海実験所の施設設備は、昭和60年（1985年）に全面改築して以来25年を経過し、特に海水関係の設備である海水取水設備や飼育水槽等の劣化・腐食が著しく、教育研究活動に大きく支障を来すようになってきました。そこで、理学部では、昨年7月に臨海実験所運営委員会を実験所で開催して、「臨海実験所の現状と今後の取り組み」案をまとめるとともに、海水設備の更新に向けて予算要求を行ってきました（理学部は今、No.23, 2009参照）。その結果、予算が認められ、この3月までに、海水取水ポンプ室や水族室、水槽類が改修・更新されました。この改修工事によって、海洋生物の安定的な飼育環境が整備され、教育研究活動の質が向上しました。新しい水槽は、全部で10基設置されました。温度管理のできる大型角形水槽4

基は、岩礁や砂泥に棲む生物の飼育に、円形水槽（通称アルテミア孵化水槽）4基（写真参照）は、遊泳・浮遊性生物の飼育に、底面タッチ式水槽2基は、海洋生物を手にとって観察でき、実験所保管の標本の閲覧と飼育生物の観察をリンクさせることで、教育活動や社会啓蒙活動に大きく寄与できることが期待されます。このように新しい水槽類を研究・教育・社会啓蒙活動に活用していきたいと考えています。



新潟大学学業等成績優秀者奨学金制度について

新潟大学では、平成18年度からこの制度を設け、入学者選抜試験成績優秀者（各学部3人）と年間学業成績優秀者（各学部2～4年次各3人）に奨学金を給付しています。

理学部では、各年次の標準修得単位数（35単位）やGPAの成績等の要件から、学業成績優秀者を選考しています。

転出教員の挨拶

転出のご挨拶

自然環境科学科 准教授 山平 寿智

この度、5月1日付けで琉球大学・熱帯生物圏研究センターに異動することになりました。新潟大学には丸8年お世話になりました。8年間で振り返って、新潟大学にどのような貢献ができたかを自問してみましたが、これといって何もできなかったことに反省しています。反対に、学部学科の先生方、職員の方々にお世話になりっぱなしの8年間だったということに改めて気付かされた次第です。皆様のご厚誼に心から感謝申し上げます。また、研究室に入ってきてくれた21名の学生たちにも、いろいろ支えられてきたように思います。彼らの頑張りがなければ、今の私でもなかったかもしれません。

新潟大学では、メダカの気候適応に関する研究を展開してきました。その間、日本各地のメダカだけでなく、東南アジアの熱帯地域にもメダカの採集に行く機会が何度ありました。琉球大学では、その地の利を活かして、熱

帯のメダカに関する研究をぜひ発展させていきたいと思っています。さらには、これまでの専門や得意分野を超えて、沖縄でしかできないような研究にも挑戦したいという気持ちもあります。そして何より、新大から琉大に一緒に来てくれることになった学生たちをはじめ、後進の指導にも力を入れていきたいと思っています。

それでは、理学部の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。最後に、私の所属するセンターは全国共同利用施設でもありますので、琉球列島でのフィールドワークなどの際にはぜひ声をおかけ下さい。何かしらお役に立てようかと思いますので。



これからの 行事予定

8月8日（日）、9日（月） 新潟大学オープンキャンパス
8月11日～9月30日 夏期休業

9月 7日 第3年次編入学試験
9月21日 秋期卒業式
10月 1日 第2期授業開始

オープンキャンパスのイベント等の詳細は新潟大学および理学部のホームページに掲載されます。

お問い合わせ 窓口のご案内

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050
新潟大学理学部学務係

TEL : 025-262-6106
FAX : 025-262-6354
Mail : gakumu@ad.sc.niigata-u.ac.jp

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。